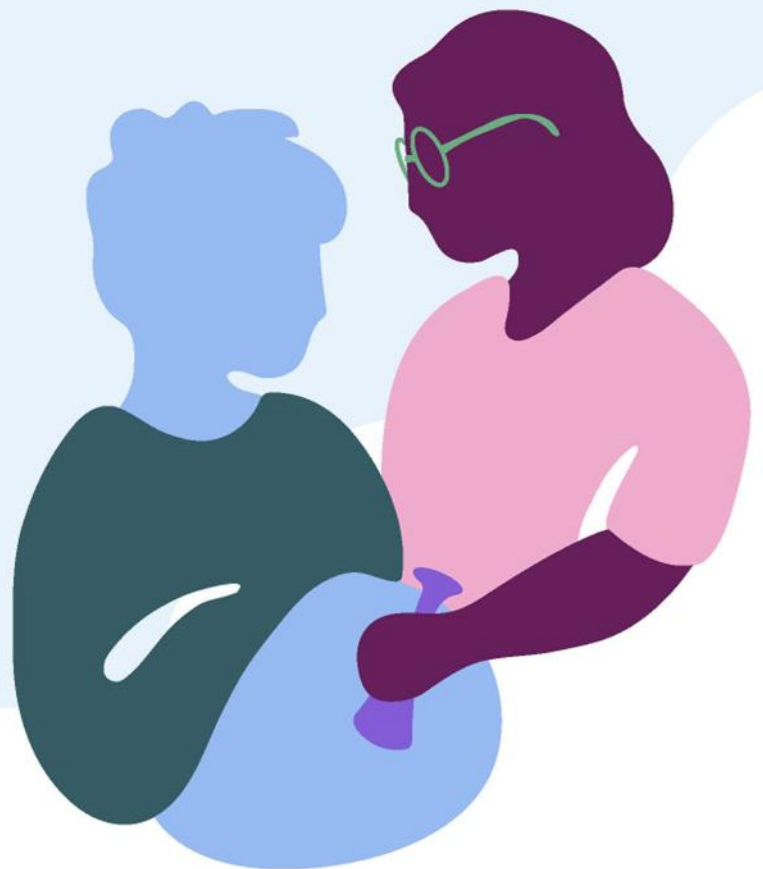




ICM 助産専門職の枠組み

ICM Professional Framework for Midwifery

2021



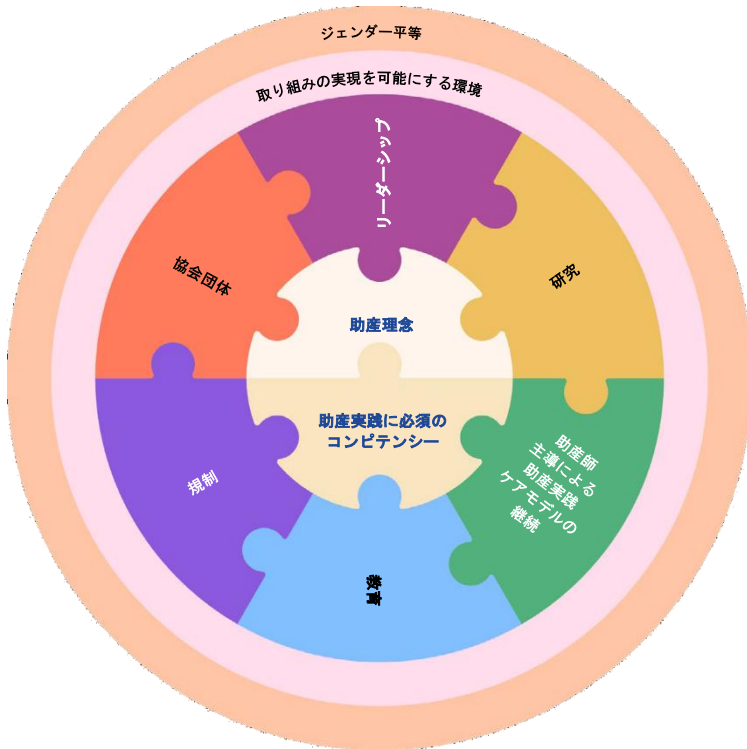
ICM 助産専門職の枠組み（2021）

ICM Professional Framework for Midwifery 2021

専門職の枠組みが 必要な理由

すべての専門職は、その業務を支援・強化し、発展の指針となる構造を必要とする。ほとんどの場合において、こうした構造は専門職の枠組みとして知られており、職業が専門職として認識されるまでに必要とされる、あらゆる要素で構成されている。

独自の保健医療専門職の一つとして、助産には独自の専門職の枠組みがある。看護や教育など他の専門職にも、それぞれの職業に特徴的な独自の枠組みがある。ICM「助産専門職の枠組み」は、ICM、会員協会、パートナーおよび関係者にとって情報や指針を提供するツールとなっている。



助産専門職の枠組みを更新する理由

2009 年に ICM は最初の助産専門職の枠組みを策定した。この枠組みは、教育・規制・加盟団体という 3 つの柱で構成されていた。さらに、助産実践に必須のコンピテンシーと助産に関する研究という 2 つの要素が、この 3 つの柱を支えていた。

この最初の枠組みは、10 年以上前から設定されている。しかし、その背景にある論理的根拠についても、これらの要素が相互に作用する方法についても、これまで包括的に説明されていなかった。その結果、この枠組みは自由に解釈がなされるままになっていた。特に、「3 つの柱（教育・規制・加盟団体）」と「根底にある要因（助産実践に必須のコンピテンシーと助産に関する研究）」の関係は、やや不明瞭なままとなっていた。

時間の経過とともに、グローバルヘルスの背景は変化・発展し、これらの要素が枠組みから欠落しつつあることが次第に明らかになった。私たちは、世界の多くの国で、助産師と助産を支援する文脈の中に教育・規制・加盟団体が存在しなければ、必須のコンピテンシーと研究に支えら

れていたとしても、この専門職を前に進めることはできないことを理解し始めた。また、私たちは助産実践に必須のコンピテンシーと助産に関する研究は、「支える」という表現よりもより重要な役割を果たしていることを理解しており、この二つが枠組みのなかでどのように作用しているかに疑問を投げかけた。

そこで、私たちは助産師が身を置く背景や環境を考えるようになった。必須のコンピテンシーが、他の各要素と相互作用する方法を検討した。また助産研究と、助産の業務範囲との関連性についてもより詳しく検討を始めた。それと同時に、個々の助産師、助産協会、ICM 自体のリーダーシップの可能性をますます認識するようになった。また、助産師は常に女性主導型かつ女性中心型の専門職として理解されてきた一方で、私たちは、助産に対するジェンダーの重要性が十分に探索されていなかったことを認識した。

さらに、当初の専門職の枠組みは、助産師を他の医療従事者と区別するもの、助産ケアの理念とモデルの核心に迫っていなかったことも理解し始めた。ICM 定款を支える[助産ケアの理念とモデル](#)は、助産の本質を捉えている。私たちは、女性の選択と声を擁護し、価値と敬意を優先し、女性と協力して性と生殖に関する健康の経験を可能な限り肯定的なものにすることで、看護師や医師が提供できないものを助産師は提供していることを知っている。私たちは、このことを助産専門職の枠組みの中でもっと明確に示す必要があると考えた。

そして、私たちの思考が進化するにつれて、専門職の枠組みも変化した。

長年にわたる対話と協力のもと、私たちの専門職の進化を反映させ、今日における助産業務をより明確に表すため、新しく改善された専門職の枠組みを開発した。これは私たちが専門職として存在する理由と方法を示し、私たちの基本的信念を表している。

この新たに改善された助産専門職の枠組みは、私たちの職業を重要で、革新的かつ時代の先端をいき続けるための後押しをしてくれる。私たちは、この専門職の枠組みがすべての国に組み込まれれば、質の高い助産サービス、助産師のキャリアの充実、女性や新生児、その家族の性と生殖に関する健康が強化されると確信している。

新しくなった助産専門職の枠組みの要素

1. 助産理念



すべての専門職は、特定の中核的価値（専門職理念ともいう）によって導かれ、中核的価値は、その範囲内すべての実践と行動を形作る。助産においては、私たちの理念が助産師のあらゆる行為に意味を与える。助産師が他の保健医療専門職と違うのはこの理念によるものであり、世界のあらゆる地域で助産師とその業務を必要不可欠なものにしている。

ICM の助産理念は、正義・公正・人間の尊厳に対する敬意という倫理的原則に基づいた助産ケアの理念を普遍的に定義している。これには、妊娠・出産は通常は正常な生理学的プロセスであり、女性・家族・地域にとって重要な意義をもたらす奥深い経験であるという専門職の中核的信念が含まれている。助産ケアは、女性の人間としての、また、性と生殖に関する健康ならびに権利を促進・保護・支援し、民族のおよび文化的多様性を尊重する。したがって助産師は、妊産褥婦のために最も適切なケア提供者であると説明されている。助産ケアは、本来、女性の社会的・感情的・文化的・精神的・心理的・身体的経験を理解することに根ざした、包括的かつ継続的なものであり、また、女性の健康・社会的地位・自信を高め、解放的なものであるという考えが込められている。

特に、助産理念においては、あらゆる助産ケアは女性との協力関係の中で行うものだと強調している。助産は、自ら意思決定する権利、そして敬意を表し、一人ひとりに合わせ、継続的で、非権威主義的であることを認めている。これらの信念や価値観は、世界中の助産師の指針となり、助産専門職のあらゆる側面に影響を及ぼしている。

2. 助産実践に必須のコンピテンシー



すべての助産師は一連の助産実践に必須のコンピテンシーを必要とする。ICM は2019年に助産実践に必須のコンピテンシーを見直し、更新した。このコンピテンシーは、妊娠前と妊娠期のコンピテンシー、分娩期ケアのコンピテンシー、女性と新生児に対する継続的なケアのコンピテンシー、一連の出産全体に及ぶコンピテンシーという、4つのカテゴリーに分かれる。

助産実践に必須のコンピテンシーは、専門職の枠組みの他の要素と相互に関連している。これらは、助産理念とケアの継続性を実践に反映している。助産実践に必須のコンピテンシーは、就業前助産教育プログラムの間で開発されるべきであり、助産師は継続的な専門能力開発および実務経験を通じてそのコンピテンスを維持すべきである。継続的なコンピテンシーは、質の高い助産ケアを保証するうえで、重要な概念である。助産規制機関は、助産師としての登録と実践に入ることを測定する能力の尺度として、コンピテンシーを用いることができる。規制機関は、助産師に継続的なコンピテンシーを実証するよう求めることで、ケアの質を高めることができる。コンピテンシーはこのようにして、ICM の助産教育の世界基準と助産規制の世界基準と連動している。

助産師関連団体は ICM の助産実践に必須のコンピテンシーを各国の助産教育や規制と統合することを 提唱する重要な主導的役割を担っている。継続的なコンピテンシーを保証する、助産師のための継続的な専門能力開発の機会を提供することもできる。助産師は、自身のコンピテンシーを効果的に応用できる環境を必要とし、研究から新しいエビデンスを得られるごとにコンピテンシーは更新される。

3. 教育



すべての専門職には独自の知識体系があり、助産師は他の専門職グループにはない知識を有している。もちろん、保健医療専門職全体に共通する知識も多くあるが、その知識を応用したり開発したりする背景は、専門職によって異なる。例えば、すべての医療従事者は共通して身体の生理機能に関する知識を持っている。この知識そのものは助産師だからといって変わるわけではないが、その知識が応用される方法は、異なる。助産師は妊娠・出産・産褥期の健康または性や生殖の健康といった独自の視点を通して、女性の身体と向き合っているためである。

その知識体系を裏付けるため、助産専門職は、ICM が[世界基準を設定し、ICM の助産実践に必須のコンピテンシーが組み込まれている](#)独自の教育体系を有している。実際のところ、教育システムに世界基準がある保健医療専門職は、助産職のみである。この基準は、助産師と、母子保健医療分野における助産業務を強化するために働くすべての人に活用されることを意図している。ICM の「助産師教育の世界基準」は 2021 年に見直し・改訂された。

現在、ICM は ICM「助産師教育認定プログラム（MEAP）」を展開しており、ICM「助産師教育の世界基準」を満たす助産教育プログラムを認定している。MEAP は、助産教育および認定の分野における国際的なベストプラクティスに基づいており、世界中の助産教育プログラムの基準および品質ラベルである。

私たちが現在取り組んでいる新しいプログラムは、助産教育開発パス（MPath）と言い、ICM は、就業前助産教育プログラムの開発および実施の強化において助産教育者を支援するためのリソースを開発している。MPath リソースの例は、ICM のウェブサイトでも間もなく公開される。これにはカリキュラム設計のガイドライン、コンピテンシー評価のガイドライン、アセスメント評価ツール、臨床に関するガイドライン、助産師教育者の基準などが含まれる。

4. 規制



すべての専門職には、独自の規制システムがあり、自律性を可能にし公共の安全を守りながら、その専門性に責任を負っている。助産規制には、助産実践の範囲の設定、就業前教育基準の設定、新人助産師の登録、助産師のキャリアを通じた免許更新や継続的なコンピテンシーの保証、専門職の範囲内の苦情申し立てと懲罰の管理、行動規範と倫理基準の設定といった機能がある。規制は管轄によって異なり、限定的な機能を有するものから、助産評議会のような助産専門の規制機関が行うあらゆる規制活動まで多岐にわたる。効果的な規制を支援するために、ICM は[助産規制の世界基準](#)（2011）を定め、[助産師の倫理綱領](#)を制定し、[助産規制の開発指針とする規制のツールキット](#)を作成した。

5. 加盟団体



助産の専門性のもう 1 つの重要な要素となっているのは、職能団体の存在である。ICM は、世界中の助産師職能団体を支援・代表し、その強化に務めている。現在、全大陸の 120 カ国を代表する 140 を超える会員団体があり、世界中で 100 万人を超える助産師を代表している。ICM は会員同士のコミュニケーションや意思決定の仕組みを提供しており、ICM 評議会により助産の国際的な代弁者となるよう義務付けられているものである。

加盟団体は、個々の助産師が国内や世界中の他の地域で働く人々と共に意見を交わすことを可能にすることで、助産師同士を結びつけ支援する上で極めて重要な役割を果たしている。ICM は、世界的なレベルで加盟団体を代表し、地域や国レベルで加盟団体と協働している。必要に応じて、加盟団体内の能力開発を支援するリソースを提供することによって加盟団体を強化する。また、国内の意思決定者から、助産や、性・生殖・母体・新生児の保健医療サービスと権利に関する意思決定に関与する必要がある助産師の代弁者として認識してもらえるように支援する。ICM のウェブサイトでは、オンライン学習モジュールが会員向けに用意されており、開発中のものもある。

6. 研究



研究とエビデンスは、助産の専門性を前進させるうえで不可欠である。近年、助産と性と生殖の健康に関する文献は非常に増加している。特に、助産師主導による継続的なケア（一人の助産師または小さな助産師グループが、出産全体を通して女性のケアを主導する）と、「従来の」助産モデル（複数の助産師とさまざまな保健医療専門職がより細分化されたプロセスにおいてケアを提供する）とでは、転帰に大きな違いをもたらすことが研究で明らかになった。

助産は研究のエビデンスに基づく専門職であり、ICM は助産師主導の研究やエビデンスに基づいたケアアプローチを支援し、すべての加盟団体や助産師がエビデンスを入手でき、アクセスしやすいように取り組んでいる。

7. 助産師主導による継続的な助産実践ケアモデル



助産師主導による継続的な助産実践ケア（MLCC）モデルは、顔見知りの一人の助産師または小規模な助産師グループが産前・産褥・産後を通して女性を支援しており、妊婦に対して十分に機能する助産プログラムが整備されることを推奨している。高所得国では、MLCC モデルを用いることで、有害なリスクが増えることなく、新生児死亡・早産・死産・硬膜外麻酔・会陰切開、器械分娩の減少、自然経膈分娩と女性の満足度が増加することがわかっている。

こうしたアウトカムを達成するために、助産師へ投資することは費用対効果が高いと言える。MLCC は、一人ひとりの女性と助産師（または小規模な助産師チーム）が互いを知ることができ、信頼、公平性、情報に基づく選択、共同意思決定および共同責任に基づいて関係を構築することができる。関係性はパートナーの間で交渉され、両者にとってダイナミックで力を与えるものである。現在 MLCC に関するエビデンスは、主に高所得国からのものである。MLCC モデルを実施し、アップグレードするためには、「世界助産白書（2021）」等の様々な報告で特定された、助産師の教育・規制・労働環境に対する課題に持続的に取り組む必要がある。これにより、女性や新生児だけでなく、その家族や社会の健康アウトカムも改善することができる。

8. リーダーシップ



助産専門職には、個々の助産師から助産協会、ICM、政府といったあらゆるレベルで強力なリーダーシップが必要とされる。ICM は常に、その専門性の性質上、すべての助産師がリーダーであるという見解を支持してきた。助産師は、日常業務を通じて、リーダーシップを発揮している。助産師が女性と関わるたびに、出産や女性の身体、女性の権利、尊重されることの意義について、女性の考え方に影響を与える。そして、その女性は周囲の人たちの考え方に影響を及ぼし、家族や友人、同僚、地域全体に波及効果を生み始める。

組織的なリーダーシップにより、助産師と協力する女性たちは、変化を生み出し、進化を促進し、この専門職を強化するために、集団的な政治的発言力を行使することができるようになる。さらに、リーダーシップによって助産師と女性は、女性の権利を提唱する他のグループとも政治的発言力を共有できるようになる。

助産師は、助産サービス、施設、教育機関、規制機関、政策決定者などにおいて、公的なリーダーとしての役割も求められている。ICM は現在、各国レベルで助産を牽引する主任助産師という地位の確立に向けて、保健省に働きかけている。ICM の[若手助産師リーダー](#)プログラムでは、

選抜された若手助産師に対し、専門職としての生活や自身が働く地域社会におけるリーダーとして成長する方法を学ぶ独自の機会を提供している。

9. 取り組みの実現を可能にする環境



取り組みの実現を可能にする環境とは、ある状況において助産師が効果的に実践し、最良のアウトカムを得るために必要な環境のことを言う。取り組みの実現を可能にする環境についての概念は、助産の専門性が非常に状況によるという理解から生まれたものである。最新の助産専門職の枠組みにこの概念を取り入れたのは、助産の他のすべての要素が、各国の保健・社会制度に依存し、影響を受けることを認識しているためである。

これには、法律・政策・リソース（人材、供給品、機器、移動、コミュニケーション）・施設・データ・安全で尊厳のある職場環境・公正な報酬・労働力の開発と配置・エビデンス・保健医療サービスの統合・教育・規制、専門的な支援と開発・社会的態度・ジェンダーの平等が含まれるが、これらに限定されるものではない。

取り組みの実現を可能にする環境という概念は、さまざまな場面でさまざまな形で議論されてきた。最初に公式の場で議論されたのは、ICM が WRA と WHO と共同で作成した「助産師の声、助産師の実態報告書（2016 年）」で、助産師のために取り組みの実現を可能にする環境に対するいくつかの主な障壁を明らかにした。その後、ICM が実施した文献レビュー（2019 年）では、このコンセプトに関する説明と考察がされたが、定義の合意には至らなかった。この状況を改善するために、ICM は、UNFPA と世界保健機関（WHO）が共催した 2019 年の Women Deliver 国際会議で、UNICEF、Jhpiego、カナダ助産協会およびレールダル グローバル ヘルス（Laerdal Global Health）と協力して、取り組みの実現を可能にする環境に関するセッションを主催し、以下の[定義が提案された](#)。

「助産師の価値を認め尊重し、女性の価値を認め尊重する環境」

ICM は 2021 年、Ariadne Labs と協力して、取り組みの実現を可能にする環境について説明し、そして国内の保健省および助産師関連団体に対し、妊産婦・新生児保健サービスにおいて質の高い助産 ケアを提供する助産師を支援するために必要な政策・体制・制度およびリソースについて指針を提供するために、政策概要と実施ガイドラインを作成した。この政策概要は、ICM のウェブサイトで見ることができる。今後は、政策概要書の試験試用や実施ガイドラインの見直し・更新などを行っていく。

10. ジェンダー平等および正義・公平性・多様性・包含性に対するコミットメント

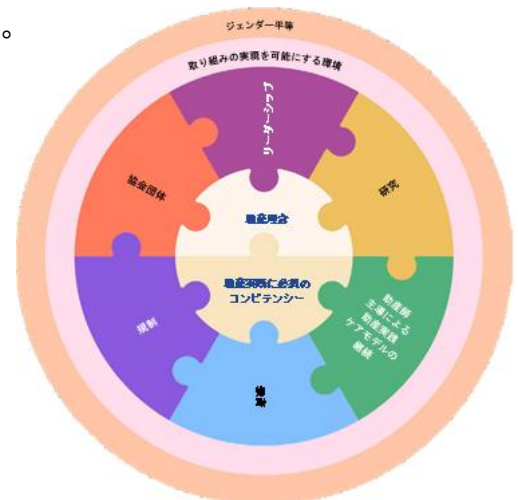


助産は、これまでずっと女性中心の職業であった。そのため、広く行きわたったジェンダー不平等が深い影響を及ぼしている。ジェンダー不平等が助産専門職にどのような影響を及ぼすかを認識し理解することは、これらの問題が地域、国、世界レベルで取り組む上で不可欠である。同様に、助産専門職は、人種差別、性差別、年齢による差別などの制度的な偏見について調査し、より良い価値の多様性に向けて努力しなければならない。

ICM は正義・公平性・多様性・包含性（JEDI）のモデル化と優先付けに努め、すべての仕事においてジェンダーの視点を用いることに尽力している。こうした取り組みは、民族・人種・出身・宗教・性的指向／性同一性にかかわらず、助産師・女性・コミュニティの成果を高め、持続可能な進歩を推進することになる。

これらの要素はどのように相互作用するのか

ICM の最新の専門職の枠組みでは、強力に支持される助産の専門性には 10 の要素すべてが必要であることがわかっているため、要素間の序列を取り払った。



最新の助産の専門職の枠組みの要素は、深く織り込まれており、全体的に相互に依存している。つまり、1 つを強化することで他のすべてにおいても強化することができるが、一方で何かが不安定になればすべてが不安定になることを意味している。

2024 年 公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本助産師会、一般社団法人日本助産学会 記

「ICM Professional Framework for Midwifery」の原文については、ICMが著作権を有します。日本語版は、ICM会員団体である日本看護協会・日本助産師会・日本助産学会が、ICMの許諾を得て翻訳しました。日本語版については、日本助産学会に帰属します。なお、ICMも同様の権利を持ちます。日本語版の転載については、ICMならびに日本助産学会<https://www.jyosan.jp/>にご連絡ください。なお、学術目的で日本語版を利用する場合は、出典を明記して、自由に引用することができます。